

「青少年教育指導者講習会」

～青少年教育施設職員の資質向上を図る～

1 趣 旨 青少年教育施設の職員や教育関係者が集まり、円滑な人間関係づくり、コミュニケーション能力向上に関わる技能・ノウハウ等を学び、その後の施設での業務向上に役立てる。また、施設職員同士の情報交換を行い、繋がりを深める。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年11月25日(月)～26日(火)
- (2) 場 所 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、島根県立青少年の家(サン・レイク)、島根県立少年自然の家、広島県立福山少年自然の家
- (5) 参加者 28名
- (6) 講 師 野中 邦浩 氏(長崎県諫早市こどもの城 事務職員)
- (7) 日 程

11/25 (月)	11:00	11:30	12:30	13:00	17:00	18:30	21:30	22:30
	入所・受付	開会行事	昼食	[研修①] コミュニケーションを視点にしたワークショップ/挿話(前編)	入浴・休憩	夕食 情報交換会	就寝準備	就寝

11/26 (火)	6:30	7:30	8:00	9:20	12:20	13:10	13:30
	起床・身辺整理	退所点検	朝食・休憩	[研修②] コミュニケーションを視点にしたワークショップ/挿話(後編)	昼食・休憩	閉会行事	解散

3 事業の内容

① プログラムデザインと企画のポイント

青少年教育施設の職員を対象に、職員としての資質向上や、日常の業務に役立つ内容となるよう研修を企画した。利用者対応や施設運営、プログラムの実践に実績のある講師を招き、講義・演習を行った。人間関係づくりに焦点を当てた参加型の演習を中心として、他施設の職員との繋がりを深め、今後の施設間連携等に生かせる研修内容とした。

② 運営のポイント

研修①と②を通して、アイスブレイクや人間関係づくりに役立つアクティビティの演習を主に行い、知識や技能を高めた。支援者の視点から考え、円滑な人間関係づくり、コミュニケーション能力に関わる技能・ノウハウ等を学ぶとともに、活動ごとに振り返りの時間を取ることで、思考をより深化させることを目指した。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
講習の内容・方法	95	5	0	0
新しい知識・技術の習得について	100	0	0	0
運営面	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・毎年、新しいスタッフが加わるという中で今回のような内容を繰り返しやっていった方がいいと思いました。
- ・具体的なすぐにでも取り組める内容でとても参考になりました。仲間作り等の大切さをあらためて強く感じたが、論理的な位置づけも知りたくなりました。

5 成果と課題

《成果》

- ・多くのアクティビティを実際に体験することで、参加者にとっては、日頃の業務に関連付けやすく、理解しやすい研修内容となった。アクティビティの進め方や振り返りについても、解説を交えながら実際に体験することで、各自が今後の業務に活かすことができるものとなった。
- ・山陰地方の5施設と広島県立福山少年自然の家から職員が集まり、共に学び、情報交換を行うことを通して、施設間の連携促進などに生かすことができる、大変有意義な研修となった。

《課題》

- ・講習会終了後に来年度以降の講習会の内容についての話し合いの場を設けた。当該事業は、今年度までの5年間は「人間関係づくりを主とした内容」であった。来年度以降も「人間関係づくりを主とした内容」の継続を望む声がある。一方で「他の施設についても知りたい」という声も多くあったため、「各施設のプログラム実践の紹介」についても検討する。参加者にとって、より満足度の高い魅力ある講習会にするためにも次年度以降の引継ぎを確実に行っていく必要がある。
- ・今年度は、研修①と②の両方で演習を中心に行った。日常の業務に生かせる内容とはなったが、他の施設との情報共有の時間が少ないという声もあった。施設間連携を促進するため、研修内容のバランスについても検討が必要である。



講義



演習



振り返り

(担当：企画指導専門職付 福田 将大)